

## 第9回アグリフード EXPO 東京 2014 が開催されました。

8月20日(水)～21日(木)に東京ビッグサイトにて「第9回アグリフード EXPO 東京 2014」(主催：(株)日本政策金融公庫)が開催されました。

今回 J-PAO は北海道、青森、茨城、佐賀の農業者 9 先に対し、出展サポートを行いました。

販路拡大や業容拡大を目指し、大手流通業のバイヤーなどを中心に、商品説明、試食の提供、商談のお手伝いをさせていただきました。



写真：出展ブースの様子



## 専門部会の動き(7月分)

### 【人材育成】

8月に開催する宮崎県の農業者向けセミナーの内容と来年度のとちぎ農業ビジネススクールに関する意見交換を行いました。

計画づくりも大事だが、その計画を実現させるための支援体制が重要であることや、長時間聴くだけの講義はやめたほうが良いなどの意見がありました。

次回は、トップマネジメントセミナーについて意見交換を行います。

### 【事業化支援・販売支援①】

南相馬農業復興プロジェクトについては、7月10日の南相馬市長と高木理事長との面談予定について資料を配布しました。

コスト削減プロジェクトについては、部会の進め方、各社が担当するテーマについて役割分担の確認を行いました。また、農業機械の共同利用のスキームについてリース事業会社との意見交換を行いました。

次回はコスト削減のための栽培技術について、説明と意見交換を行います。

## 【事業化支援・販売支援②】

柑橘加工品販売についての販売戦略について検討を行い、次のような意見が出されました。

・容量に対し価格が割高な点や、価格設定に対してのパッケージデザインの見直し(高級感が不足している)

・冷凍商品のため販売店舗も限定されてしまい販路を狭める要因

これらを踏まえ消費者目線を意識した販売戦略を再考すべきとの結論となりました。

今回は、新たな農産物・農産加工品を採り上げる予定です。

## 【事業化支援・販売支援③】

大規模畜産経営の6次産業化にかかる事業構想について意見交換を行いました。

商品(牛肉)は健康志向など時好にあっており、赤味肉の評価基準が確立すれば消費者へ合理的な説明が可能となり、また味だけでなく生産環境により付加価値を高め、新たな市場開拓することが有効になることや、牛肉以外の地域特産品とのセット販売、国内だけでなく海外販路の開拓も検討課題などの意見が交わされました。

今回は今回の内容を踏まえた、事前レポートを配布し、より具体的な販売戦略について検討をおこないます。

## 農業経営アドバイザー合格者決まる

8月7日(木)に第19回農業経営アドバイザー面接試験を開催しました((日本政策金融公庫農林水産事業本部委託事業)。

面接試験の結果185名が合格し、「日本政策金融公庫 農業経営アドバイザー試験合格証」が交付されました(累計2860名合格)。

次回、第20回研修・試験は平成26年11月実施を予定しています。

## 第5回ファーマーズ&キッズフェスタ

11月8日(土)~9日(日)、「子供と農業をつなぐ架け橋」をテーマに第5回「ファーマーズ&キッズフェスタ2014」が開催されます。

昨年は2日間で58,100人にご来場をいただきました。

現在イベントで、農産物の販売や展示を行う出展者を募集中です。出店や協賛についてのお問い合わせは、事務局までお願いします。

\*ファーマーズ&キッズフェスタの内容が公開されています。J-PAO ホームページのバナーをクリック下さい。

## 主な活動(7/26~9/1)

- 7/31 青森市役所(伊藤)
- 8/1 青森県(第3回出展者セミナー)(伊藤)
- 8/4~6 被災地域農業法人等復興促進事業  
(松田運営会員、伊藤)
- 8/5 豊橋信用金庫(高木理事長)
- 8/5~6 宮崎県経営発展セミナー  
(農業経営支援センター 大石氏、藤井氏、山崎氏)
- 8/28~29 宮崎県経営発展セミナー(高田)

## 往復書簡

今回からは、木之内勇樹氏（熊本県）と  
当機構理事長の高木勇樹との往復書簡が始まります。

拝啓 高木 勇樹様

この度、この様な貴重な機会を頂き大変有り難く思います。普段からお手紙を書き留める事などなく、多々言葉足らずになることを何卒お許し下さい。

私は現在、妻と子供二人の四人家族で世界農業遺産に認定された、熊本県阿蘇郡において就農し、和牛の繁殖経営を行っています。

私は、非農家育ちで、ゼロから農業を初めて一代で従業員を抱えるまでの農場を築き上げた両親を見て育ちました。ゼロから一つの農場を築き上げるまでの人並みならぬ努力と苦勞を幼いながらに目の当たりにしながらも、「将来は、農業をやる。」と思っていました。当時の事を聞けば本当に大変な生活をしていただろうとは思いますが、子供であった私には、そんな苦勞を大きく感じることはなくむしろ、強い意思と明るい未来を描く両親と、その仲間の存在が子供ながらに大きく印象に残っています。その様な環境と大自然の中で育った事で、自然と農業の魅力に取りつかれていたのだと思います。

私は、後継者として、有限会社木之内農園の経営に入っていく事も出来たと思いますが、その道に進む事は全く考えもしませんでした。幼い時から動物が大好きで作物に対する興味よりも動物に対する関心の方が大きく、中学生の時、酪農・和牛の一貫経営をされている農家さんの所へ一ヶ月間泊り込みで行った時、「これだ！これしかない。」と強く感じ、畜産をやって行く事を決めました。思えば、自分自身が良い意味で利用できる環境と興味がある事が一致

した瞬間だったのだと思います。

私は今、農業界で起きている問題、国や行政、官僚の方々を考えられている事など難しい事は正直よく理解出来ないかもしれませんが、しかし人間にとつて最も重要な食を支える農業は世界中で誇れる物だと確信しています。今はとにかく農業の現場で自分自身の技術と感覚を磨き上げます。

そしてこれから先、どの様な経営者になれるのかわかりませんが、どんな困難な事が起き様とも「生涯、農業人。」であり続けます。

平成二十六年七月吉日

敬具

木之内 勇樹(きのうち ゆうき)

一九八九年 熊本県阿蘇郡生まれ  
二〇〇八年 熊本県立熊本農業高校(畜産科)卒業  
二〇一〇年 熊本県公共育成牧場研修  
二〇一一年 就農



後列左が筆者



牛舎建設の様子

拜復 木之内 勇樹 様

エルニーニョの影響の見方が変わり、気象庁の予測が寒い夏から一転暑い夏に。日本列島は猛暑と大雨で悲鳴をあげています。八月七日は暦の上では立秋ですが、いかがお過ごしですか。

もしかすると、酪農・和牛の農家さんのところに一ヶ月泊り込み君の運命が決まった頃、私は君の実家を訪ねていたのではないかと思います。

君の父君との出会いは私が企画室長の頃、もう二十年以上前のことです。新政策（食料・農業・農村政策の方向）を省内で論議した際、当時新進気鋭の農業経営者であった父君からいろいろお話を伺ったことが縁で、これまで農業経営とは何か、農業・農村の現場の実態などを教えていただき続けています。

そのご子息である君がご両親の背中を見ながら育ち、中学の頃天の啓示を受けて和牛の繁殖経営に取り組まれ、ご夫婦で一步一步着実な経営展開をされていることは、本当にお美事としか言いようがありません。

君は「農業界で起きている問題、・・・難しいことは理解出来ていないかもしれませんが」と言われていますが、長年官僚として農政に携わり、現在ボランティアでプロ農業の総合支援に取り組んでいるものからすると、至極当然のことだと思います。

「難しい事」の多くは、君のような農業経営者にとってはどうでも良い、利害の調整や意地とメンツのぶつかり合いみたいなことがほとんどだからです。

大事なことは、「人間にとって最も重要な食を支える」

私の理解では需要者を常に意識した経営をすることを通じて「農業は世界中で誇れる物」にする、つまり産業として持続する農業経営を確立することだと思います。

農業の現場で技術と（経営）感を磨き上げることが生涯農業人であり、世の中に受発信出来るプロ農業経営者になる王道だと確信します。

次回は君の先達である父君の十年ほど前の著作「大地への夢」をどう受けとめておられるかをお聞かせいただき、更なる話を進めていけたらと思います。

平成二十六年八月吉日

敬具

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ

一九六六年 東京大学法学部卒業後農林省入省。食品流通局砂糖

類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 ㈱農林中金総合研究所理事長

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長  
現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。



## 会員紹介

会員の方々を順次ご紹介させていただきます。  
ご協力のほどよろしく申し上げます。

### 株式会社ケーアイ・フレッシュアクセス

〒164-0011 東京都中野区中央 1-38-1 住友中野坂上ビル 15 階

TEL : 03-3227-8700 FAX : 03-3227-8710 URL : <http://www.kifa.co.jp/>

事業内容 : 生鮮農産物 (輸入農産物も含む) ・加工品の卸売、及び青果専用センターの運営・ロジスティクス全般の一括業務受託

弊社は全国の量販店様を中心に日々青果物を提供させて頂いている中間流通業者です。

現在はバナナ、キウイ、パインといった輸入品を中心に取扱っておりますが、今後は国産青果の取扱いを強化していくと同時に、生産の現場により深く関与し、生産者の方々と常に WIN/WIN の関係を保ち続けられるような新しい農業のかたちを作り上げていきたいと思っております。

現在弊社は Panasonic 社と連携しながら環境制御型ハウスの導入によるほうれん草(土耕)栽培の最適なかたちを目指しております。生育環境の最適化による収量アップ、夏場含めた周年栽培(年間 8 作)、換気・灌水・遮光機材などの自動制御による省力化などを見込んでおります。こうした Panasonic 社の技術と生産者の方々の知見、弊社の流通ノウハウを組み合わせることでより強い農業のかたちを実現できるものと確信しております。



### 特定非営利活動法人日本GAP協会

本社 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3 番 29 号 日本農業研究所ビル 4 階

東京事務所 〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-13-31-3F

TEL : 03-5215-1112 FAX : 03-5215-1113 URL : <http://jgap.jp/>

事業内容 : 農業分野における食品安全・環境保全・労働安全を改善するための手法 GAP (Good Agricultural Practice) の普及と第三者認証制度の管理

政府および農林水産省の基本政策として、GAP の普及が進められております。食品安全、環境保全、労働安全を確保するために、科学的で適切な農場管理が求められ、その基準が GAP です。日本 GAP 協会は 2006 年に設立された日本最大の GAP 普及のための公益団体です。JGAP 以外にも GLOBLG.A.P. や米国 FDA-GAP の普及・指導・情報提供も行っております。消費者に安全な食品を提供するために、農業現場の管理向上は不可欠な課題であり、フードチェーンの関係者全員の協力のもとに初めて成し得るものだと思います。

<日本 GAP 協会について>

2006 年に設立されました。現在、農業界と流通業界を中心に 330 社の会員が日本 GAP 協会の活動を支えています。会員の皆様のご支援を得て、設立から 7 年の間に、日本・韓国・タイの 3 か国に 1,800 の JGAP 認証農場、5,000 名の JGAP 指導員、4 社の JGAP 審査・認証機関、90 名の JGAP 審査員という普及実績と普及体制を構築してきました。JGAP は大手小売業や食品メーカーの仕入先産地の指導・管理・評価、および多くの有力な農産物ブランドの産地の品質管理体制の構築に活用されています。